

2024. 9. 2 &lt;計2枚&gt;

大阪科学・大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

大阪いばらきキャンパス移転後、初企画「映像学部生プロデュース」  
安倍公房 生誕 100 周年記念「アヴァンギャルドの巨人 安部公房」開催  
映像学部で 2008 年から続く企画、大阪でも実施  
日程：2024 年 9 月 14 日（土）～ 20 日（金）  
会場：シネ・ヌーヴォ（大阪市西区）

立命館大学映像学部とシネ・ヌーヴォは、9 月 14 日（土）～20 日（金）の日程で、今年、生誕 100 周年を迎える小説家・安部公房の作品を上映する企画「アヴァンギャルドの巨人 安部公房」を開催いたします。

安部公房は、前衛的（アヴァンギャルド）な作風で知られ、シュレアリズムの影響を受けた不条理な設定と機械文明や都会人の孤独といった現代的なテーマを融合させた独自の作品を生み出し続けた小説家です。

この企画では、安部公房生誕 100 周年を記念するとともに、安部公房原作の『箱男』が石井岳龍監督によって長い年月を経て映画化され、公開されることになった今夏にあわせて、「失踪三部作」を中心に、これまで安部公房が原作・脚本・監督として関わってきた過去の映画作品を特集し、その魅力を発信します。また、安部公房の文学に精通している文学紹介者・頭木弘樹氏や安部公房と勅使川原宏の研究者である友田義行氏とのトークイベントも開催し、安部公房作品の魅力をお話いただきます。

なお、本企画は、同学部に在籍する 2 回生以上が受講する「映画上映実習」の授業の一環で、学生たちが映画を中心とした作品の上映企画を立案し、シネ・ヌーヴォの協力のもと、実践するものです。学生たちが主体となって上映作品の選定、ちらしの作成、広報活動、当日の会場運営（補助）など、全てを行っています。2008 年より、京都の劇場で実施してきましたが、2024 年に同学部が大阪いばらきキャンパスへ移転したことを機に、大阪での開催となりました。

記

日 時：2024 年 9 月 14 日（土）～20 日（金）

会 場：シネ・ヌーヴォ

（〒550-0027 大阪市西区九条 1-20-24）

スケジュール：別紙

入 場 料：各回当日一般 1,500 円／学生 1,000 円

主 催：立命館大学映像学部、シネ・ヌーヴォ

企 画：学生企画グループ「チーム安部公房」（坂上舞、田中瑞貴、イミナ、澤萌々花）

以上

●上映についてのお問い合わせ先 シネ・ヌーヴォ TEL. 06-6582-1416

※記事掲載いただく際は、シネ・ヌーヴォのみ（電話番号含む）ご記載願います。

●取材についてのお問い合わせ先 立命館大学映像学部

川村 k-kawamu@im.ritsumeikan.ac.jp

**別紙****【スケジュール】(予定)**

9/14(土)	15:30- 『砂の女』(147分) + 頭木弘樹氏トーク(50分、オンライン) 19:00- 『他人の顔』(122分)
9/15(日)	17:15- 『時の崖』(26分)、『仔象は死んだ』(54分) 19:05- 『燃えつきた地図』(118分)
9/16(月)	18:00- 『壁あつき部屋』(110分) 20:10- 『砂の女』(147分)
9/17(火)	18:00- 『他人の顔』(122分) + 友田義行氏トーク(40分) 21:00- 『時の崖』(26分)、『仔象は死んだ』(54分)
9/18(水)	18:00- 『砂の女』(147分) 20:45- 『他人の顔』(122分)
9/19(木)	18:00- 『燃えつきた地図』(118分) 20:20- 『壁あつき部屋』(110分)
9/20(金)	18:00- 『壁あつき部屋』(110分) 20:10- 『燃えつきた地図』(118分)

**【上映作品】****『砂の女』(1964年)**

あらすじ: 昆虫を探しに砂丘地帯にやってきた 1 人の教師。滞在したのは砂の穴の中の家だったが男はその家から出られなくなってしまう。妖艶な女が住むその家では毎日の砂かきが必要不可欠であり男は脱出を試みるが、生活の中で男の心は変化してゆく。

**『他人の顔』(1966年)**

あらすじ: 化学研究所の爆発事故で、顔に傷を負ってしまう主人公。会社の役職や妻との関係も歪んでいき苦悩する主人公が見出した解決策は、プラスチック製の仮面を仕立てあげて、誰もいない「他人」になりすますこと。だが、「他人」でうまくいってしまったことで彼の心は引き裂かれていく。

**『燃えつきた地図』(1968年)**

あらすじ: 女から失踪した夫の行方調査を依頼された興信所の男。失踪者を追跡しているうちに依頼者の弟の死や、失踪者の同僚の自殺など次々と手がかりを失い、男は次第に自分自身を見失ってゆく。

**『壁あつき部屋』(1956年)**

あらすじ: 終戦後、巣鴨拘置所に服役していた BC 級戦犯の 1 人、山下は脱走を企てるも失敗してしまう。やがて母の死を知った山下は 1 日だけ出所が許され、その足でかつての上官、浜田への復讐に向かう。

**『時の崖』(1971年)**

あらすじ: 落ち目のランキング・ボクサーが、試合直前の心境から、試合中のダウンまでの経過を実況風に独白し続ける。

**『仔象は死んだ』(1980年)**

あらすじ: いちめん広がる白い布。布は人生の投影装置であり、数々の夢が映しだされる。布が眠りにつくとき、女性の姿をした「夢」や布の精、言葉を失った「探す男」が現れる。